



スポットレポート

2007年7月27日

投資家の皆様へ

スパークス・アセット・マネジメント株式会社

日本株式市場の見通しについて

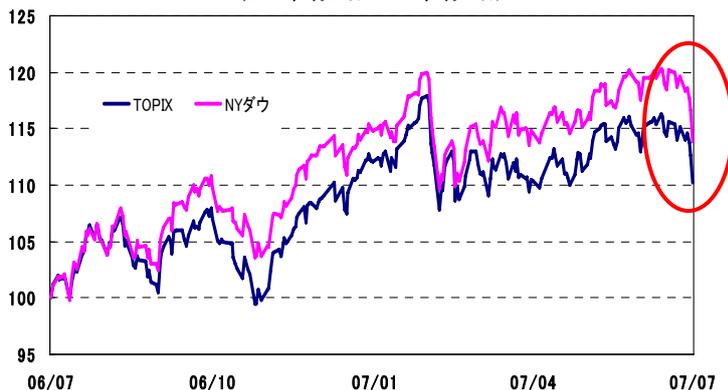
7月27日の東京株式市場は、昨日の米国、欧州の主な株価指数が軒並み前日比-2%以上下落したことを受け、TOPIXも前日比-2.16%と下落いたしました。

米国におけるサブプライムローン（信用力の低い個人向け住宅ローン）問題が多発したことをきっかけに、米国金融市場での信用リスクに対する不安が一時的に高まったことが要因と思われます。それに伴い、高リスク運用に対するスタンスの変化、またM&Aを牽引した買収ファンドの資金調達懸念など、株式市場から急速にリスクマネーが流出しかねないという不安が広がったことも下落に拍車をかけたと思われます。

指数	2007年7月26日	2007年7月27日	前日比
TOPIX	1737.18	1699.37	-2.16%
指数	2007年7月25日	2007年7月26日	前日比
NYダウ	17702.09	17293.33	-2.31%

出所：ブルームバーグ

TOPIXとNYダウの推移 (2006年7月27日～2007年7月27日)

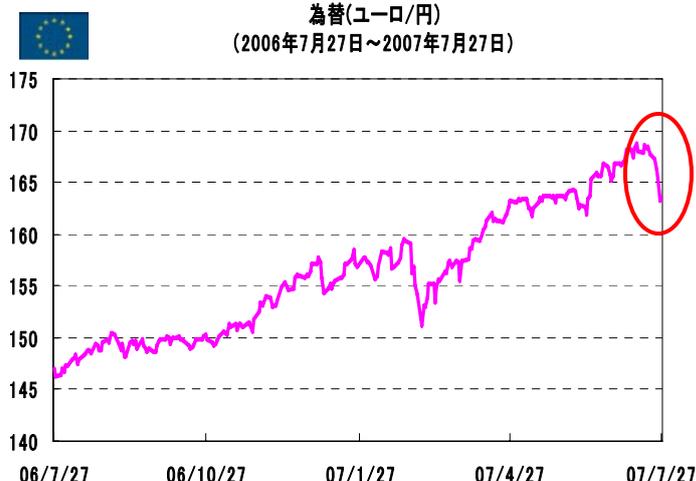


※2006年7月27日を100として指数化。

為替(ドル/円) (2006年7月27日～2007年7月27日)



為替(ユーロ/円) (2006年7月27日～2007年7月27日)



出所：ブルームバーグ

■当資料は、情報提供を目的としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的とした販売用資料ではありません。また、証券取引法に基づく開示書類ではありません。■当資料に掲載されている情報は、将来の運用成果、市場動向や運用方針等をお約束するものではなく、その結果を保証するものではありません。■当資料は、その正確性・完全性について弊社が保証するものではありません。また、将来予告なく変更される場合があります。■当資料中に記載されている内容、数値、図表等は当資料作成日現在のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。



【今後の見通しについて】

米国経済に関しては、引き続き住宅市場の減速、サブプライムローン等の懸念要因はあるものの、堅調な企業業績を背景とした設備投資の拡大が継続しており、下期には回復が期待できると考えております。

今回の米国株式市場の急落については、堅調な企業業績、自社株買い、M&Aの拡大等を背景に、ダウ工業株30種平均は今年に入り過去最高値を更新しており、ここ1年で約20%程度上昇していたことから、その一時的な反動によるところも大きいと考えております。

世界経済については欧州・新興国を中心として高成長が持続しており、変調の兆しは今のところ見当たりません。また日本経済に関しては、外需は引き続き、好調な世界経済の恩恵を受けているとともに、内需に関しては個人消費が出遅れてはいるものの堅調な企業業績や、それを背景とした雇用環境の改善により緩やかながら回復傾向にあると判断しております。実際のところ、現在既に発表されている企業の第1四半期の決算は総じて堅調なものとなっております。したがって、今回の下落が、堅調な日本経済や株式市場のトレンドに大きな変化を与える要因になるとは考えておりません。

弊社といたしましては、引き続き、徹底的なボトムアップ・アプローチを通じて、中長期的に企業価値が増大する会社を発掘してまいりたいと思います。

以上

■当資料は、情報提供を目的としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的とした販売用資料ではありません。また、証券取引法に基づく開示書類ではありません。■当資料に掲載されている情報は、将来の運用成果、市場動向や運用方針等をお約束するものではなく、その結果を保証するものではありません。■当資料は、その正確性・完全性について弊社が保証するものではありません。また、将来予告なく変更される場合があります。■当資料中に記載されている内容、数値、図表等は当資料作成日現在のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。